

令和6年度

第2回大垣市教育振興基本計画策定委員会議事録

日時	令和6年9月27日(金) 15:15~16:15
場所	上石津学園 会議室
次第	1 大垣市第2次教育振興基本計画社会教育分野後期計画案(意見反映後)の説明 2 指標と目標の説明 3 意見交流 4 閉会のことば
出席者【教育振興基本計画策定委員9名、事務局8名、計17名】	
・教育振興基本計画策定委員 佐野 篤、益川 浩一、稲川 明子、平野 宏司、安藤 千博、井上 徹子、 松野 光宏、桑原 昌子、三代 広子	
・事務局 細江 敦(教育長)、平松 善幸(事務局長)、林 昭義(社会教育スポーツ課長)、 小倉 伸子(社会教育スポーツ課参事)、田中 真貴(社会教育スポーツ課主幹)、 田島 善之(社会教育スポーツ課主幹)、堀 佳奈(社会教育スポーツ課主事)、 澤田 文彦(社会教育指導員)	
傍聴者【0名】	
事務局	・ 前回いただいた意見に対する回答について、課長より説明させていただく。
課長	・ 「こども基本法」の本質的、根底的理念である子ども・若者の「参画」・「意見表明」が社会教育分野においても、もっと前面に出てしかるべきではないかという意見をいただいた。【基本目標4】基本施策(1)「少年期からの学校教育以外の学びの場として、スイトピア子どもクラブや子ども会リーダースクールなどの講座を、子どもの意見を聞きながら充実させるとともに…」とあるように、新たな指標として、子どもに対するアンケートを実施予定である。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「社会教育主事の発令や有資格者・社会教育士の積極的要請等を謳っていただけるとなおい」という意見に対し、【基本目標 1】基本施策(1)の「社会教育委員や青少年育成推進員、青少年団体の指導者など、地域の社会教育を推進する人材の養成」の「青少年団体の指導者」を「社会教育士」に変える。 ・ 「社会教育施設や地区センター等を活用し」の表記を「社会教育施設や公民館、地区センターを活用し」と公民館を入れた表記にしてほしいという意見については、社会教育施設に公民館も含まれるため、修正なしとする。 ・ 「大学、企業等」を広く「教育機関、企業等」との表現に変えてはいかがかとの意見については、大学が、教育機関を具体的にした表記であり、その他の教育機関も含めて「大学等」という表記にしている。 ・ 「子どもへの支援や子ども対象の事業が、就学前と就学後に分けられ、担当課も違ってくる。その間のつなぎをもう少しスムーズにし、子どもは何歳であっても同じ支援がなされていくとよい。」という意見に対して、来年度、国のこども大綱に沿って、子育て支援計画が、大幅に改定される予定である。子育て支援課と連携して、子ども支援を進めていき、新入学児童の保護者には、相談窓口やおしゃべりサロンが実施されていることを、積極的にPRしていく。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 以上の説明に対して、ご意見あるか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会教育士の注釈の中、大学での養成課程を修了した者も資格をとれることを付け加えてもらいたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ そのように、注釈の内容を修正させていただく。続いて、指標と目標について、課長より説明させていただく。
課長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本目標 1 の基本施策(1)において、人づくりや地域づくりのため、社会教育を推進する人材の養成が必須であり、引き続き社会教育主事講習を毎年職員 1 人が受講していく。令和 10 年度の岐阜大学での講習開催時には、市民へも受講を呼びかけ、市民 1 人の受講も見込み、プラス 2 とした。 ・ 基本施策(2)において、地域づくりにむけた社会教育活動の推進のため、24 地区で行われる社会教育推進事業を支援して、今回新たに「小中学校や子

ども会などの青少年育成団体」との連携も明記し、他団体との連携回数を増やすことを目標とした。全24地区の事業において、1地区2回以上の連携を図るものとして算出し、令和11年度の目標を48とした。目標達成のためには、年度末に実施する社会教育推進員へのアンケート調査で、連携の達成度を確認するとともに、事例の紹介や各地区の交流、研修を行うことで、全体のレベルアップを図る。

- ・基本目標2の基本施策(2)において、悩みを抱える家庭への支援活動を推進するため、家庭教育支援「おしゃべりサロン」を充実させ、より多くの保護者に利用してもえるようPRを強化して取り組んでいく。令和5年度では、1日平均の参加者数が平日と土曜日は2人、夏休みは6人だったため、令和11年度には、それぞれ1人ずつ増やしての参加を目指し、合計87人を目標とする。
- ・基本目標2の基本施策(4)において、青少年の主体的な参画を促進するため、子ども会リーダースクールの参加者に対して実施するアンケートで、4段階の満足度のうち、「とても楽しかった」と回答した割合を算出し、毎年95%以上の満足度を目指す。
- ・基本目標3の基本施策(2)において、地域学校協働活動の推進のためには、学校支援ボランティアの定着が必須であるため、引き続き登録者数を増やすことを目指す。小学校区で年間1人ずつ、上石津学園前期課程を入れて市内小学校は19校あるため、年間約20人ずつ増やし、5年間で100人の増加を見込んで算出し、令和5年度の1,305人に対して、令和11年度の目標を1,405人とした。
- ・基本施策(3)において、地域における青少年健全育成を推進するため、青少年健全育成研修会いわゆるブロック研修会への支援を引き続き行い、参加者数を増やしていく。5年間で10%増加させるものとして目標を設定した。目標達成のために、青少年育成推進員や社会教育推進員が参加する「明るい青少年都市市民会議合同研修会」において、アンケート調査を引き続き実施し、満足度もあわせて確認しながら充実を図っていく。
- ・基本目標4の基本施策(1)において、スイトピア子どもクラブなどの講座を、子どもの意見を聞きながら充実させるため、受講者に対するアンケートを新たに実施し、満足度を確認したい。4段階の満足度のうち、「大いに満足」と回答した割合を算出し、毎年80%以上の満足度を目指す。
- ・基本施策(2)において、生涯学習機会の充実のため、社会教育推進事業を全

事務局	<p>24 地区で年間 4 事業を実施することを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前にいただいた意見と、その意見に対する回答を課長より説明させていただく。
課長	<ul style="list-style-type: none"> ・基本目標 1 の(2)、地域社会教育推進事業における小中学校や青少年育成団体、NPO等との連携数は、基本目標 4 の(2)地域社会教育推進事業の実施回数と同じで、延べ数になるため、件数とあったものを、回数に変えた。また、「NPO等との連携回数」という表現があいまいであるため、基本計画で示したとおり「小中学校や子ども会などの青少年育成団体、NPO、大学、企業等との連携回数」と表現を修正した。NPO団体とは、レクリエーション協会や防災士会などがあたる。 ・2つ目の基本目標 2 の(1)、家庭教育支援「おしゃべりサロン」への参加者数を目標にするのはよいが、市民にどのようにPRしていくかが重要という意見をいただいた。チラシを市内の小中学校すべての保護者に配付するとともに、広報おおがきやSNSでも市民に周知し、市民カレンダーにも開催日がわかるように記載している。今後はアウトリーチによる家庭教育学級で、家庭教育支援スタッフが、直接家庭教育学級の参加者にPRする機会を増やしていく。 ・また、小学校区ごとに家庭教育支援チームを設置する動きがほしい。支援チームの活動の地域への定着を図る取組が重要である。との意見をいただいた。本市では、家庭教育支援スタッフを「家庭教育支援チーム」として国に登録しているが、現在のスタッフは23名であり、小学校区ごとにチームを作れるほどではない。今後は、地域で家庭教育支援チームの活動が定着していくことを課題とし、まずはスタッフの人材確保と人材育成に努めていく。 ・基本目標 2 の(2)、「子ども会リーダーズスクール」の満足度について、リーダーズスクールの取組を市民等に紹介するなど周知が必要であるとの意見をいただいた。大垣市子ども会連絡協議会から、単位子ども会を通じて会員に案内するとともに、広報おおがき等で市民にも周知している。 ・また、アンケートには自由記述欄があるかとの質問に対し、「子ども会リーダーズスクール」の参加者には、感想を記述する自由欄も設けてアンケートを実施している。

	<ul style="list-style-type: none"> ・基本目標4の(1)、「スイトピア子どもクラブ」の満足度については、9月に、中間アンケートを実施し、今年度末にも自由記述欄を設けて実施する。また、アンケートを通じて、どのようなクラブがあるとよいか、子どもの意見を聞き、子どものニーズの把握もしていく。 ・「スイトピア子どもクラブ」の魅力や具体的な活動内容、参加者の感想を紹介するなど周知する必要がある。との意見に対し、受講生募集の際に、市のHPで、写真を掲載するなどして活動の様子を伝えていくようにする。 ・高めに設定された目標に対し、具体策と振り返りのサイクルで達成されることが望まれるとの意見があった。毎年、目標に対しての実績を評価するとともに、取組や目標設定の見直しを行い、状況を改善しながら取り組んでいく。 ・「おしゃべりサロン」の参加者数を目標とするより、満足度を目標としたいという意見もあったが、現在の課題は、いかに認知度を高め、参加人数を増やしていくかということである。まずは広く周知し、参加者を増やすことを目標とし、今後はアンケートもとり、次のステップとして満足度も図っていく。 ・学校支援ボランティアに登録している人全員が活動しているのか、活動の状況を知りたいという意見をいただいた。今年度後期より、活動内容や回数、ボランティアの参加人数などを把握できるよう、各校のコーディネーターに活動記録をとってもらおう。また、年3回ある学校支援コーディネーターの研修会で、引き続き調整をお願いし、活動の紹介や他校との情報交流によって、さらなる活動の充実を図っていく。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・以上の説明を受け、あらためて、意見や質問があったら発言をお願いする。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と学校がつながっていくのに、学校支援ボランティアを増やすことが重要ではなく、ボランティアに学校を支援してもらうことによって、どういう子どもを育てていきたいか、子どもたちの育ちにどうつながっていくのか、学校長がビジョンをもってもらいたい。学校からも子どもたちを地域で活躍させてもらいたい。学校と地域で子どもを育てていきたい。上石津学園の協働本部の活動は、そういう点で学ぶ点がある。地域によって差があるのは仕方がないが、コーディネーターがしっかり機能するように市として働きかけていただきたい。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・学校支援コーディネーターの働きがとても重要であるとあらためて感じた。指標として、ボランティアの数を示すのは仕方がないが、指標ありきではなく、活動の内容の充実を図ることを目標としていただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・数値目標を立てなければならないことは理解できる。何人参加したかよりも、参加した結果、どのような成果が表れたのか、真のところを評価委員会等で評価してもらいたい。 ・人を増やすことよりも、質を高めることが重要である。社会教育分野では、幅広い課題を扱うこともあり、地域と人をつなぐ人材を育てていくことが大切である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・学校支援コーディネーターは、各校1人である。1人では、活動ができない。学校のニーズを聞き、実際に活動を進めていくために活動する人を集めるのは、コーディネーターである。具体的に、様々な活動に対応するためには、数が必要である。まずはボランティアができる人を増やすことからではないか。人数が増えたところで、活動の中身について充実させていくように考えていくべきではないか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・学校支援ボランティアに学習支援に入ってもらった時に、活動後にお茶を出しながら、校長との雑談の中で、また次のボランティアについて話し合う。この積み重ねで、ボランティアの人数や活動内容が増え、発展していくのではないか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの学校への入り方も、学校の考え方によって変わってくる。学校がいかに関心を持っているかである。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・PTAの広報誌に、先生の紹介を写真付きで載せることが通例であったが、今年度は、写真を掲載することが不可の先生がおり、写真を載せることができなかった。広報紙は、電子版のみとなり、地域に回覧することもなくなってきている。地域、保護者と先生との関係が希薄になってきている。さみしい時代である。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアに登録しても、何も活動していない保護者が結構いる。ボランティアも社会参加の一つである。地域のいろいろな人々とつながりたいという気持ちで登録しているので、学校も積極的に活用してもらいたい。 ・PTAに入ることをためらう保護者もいる。PTA活動の意義が理解されていない。家庭教育学級の必要性も理解されていない。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの貴重な意見をいただいた。意見を反映させ、本質を問いながら質の高い事業を進めていけるよう努力していく。以上をもって、第2回大垣市教育振興基本計画策定委員会を閉会する。